

# 神戸港開港回想



# マップ

ウォーキング



5



伊藤町筋  
ITOMACHISUJI Ave



6

栄町通



7

メリケンパーク



1



2



3



4

## ①フラワーロード

フラワーロードは、明治初期まで生田川の水路でした。

神戸港開港3年後の1871年に加納宗七が生田川の付替え工事を行い、生田川を現在の位置に移し、旧水路を道路として整備しました。

フラワーロードと呼ばれる前は、税関線と呼ばれていたこともあるようです。

## ②加納宗七の像

フラワーロード西側の東遊園地には、加納宗七のブロンズ像があり、その前には旧生田川をイメージした水路が造られています。



フラワーロードのプランター  
初代神戸税関庁舎とZEIKANSENのロゴ

## ⑤伊藤町

伊藤町という町名は、初代兵庫県知事伊藤俊輔（のちに博文）にあやかってつけられました。

伊藤俊輔（博文）が県知事であった当時は、現在の税関長にあたる運上所長官は県知事が兼務していました。したがって、伊藤俊輔は、1868年7月から翌年5月までの間、神戸運上所長官でもありました。



伊藤博文



海軍操練所跡碑



網屋吉兵衛の顕彰碑

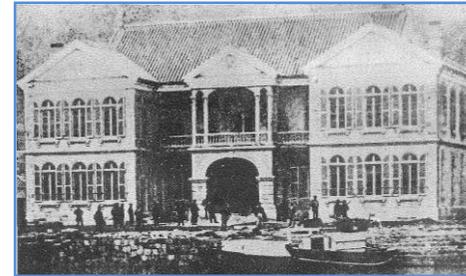


安政の五カ国条約（神戸税関広報展示室）

## ③神戸税関本関庁舎

現在の神戸税関庁舎は、1999年に完成した3代目庁舎です。みなと神戸のランドマークとして、長く市民の皆様が親しまれてきた時計塔のある2代目庁舎を保全し、2代目庁舎に連続するかたちで新館を増築、船をイメージした庁舎に生まれ変わりました。2代目庁舎部分を旧館、増築部分を新館と呼んでいます。

旧館1階にある広報展示室には、「安政の五カ国条約」や運上所を改築した初代神戸税関庁舎の模型など開港まつわる品物も展示しています。



初代神戸税関庁舎の写真（神戸税関沿革略史）

## ⑦三宮神社（神戸事件）

開港後間もない1868年2月4日、備前藩の隊列が西国街道を東に向かって行進中、三宮神社の前にさしかかったときに、外国軍艦水兵ともみ合いになりケガを負わせ外交問題となりました。

朝廷は、東久世通禧を勅使として派遣、勅使一行は2月7日に神戸に到着します。

2月8日、東久世勅使は、運上所に仏英など6カ国の公使を招いて天皇親政の詔（国書）を伝え、外交問題の処理にあたりました。東久世通禧は、公使たちの要請で4月まで神戸に留まり内外事務を統率し、江戸から明治への橋渡しに尽力しました。



史跡神戸事件発生地（三宮神社）

## ④神戸税関発祥の地碑

神戸税関は、1868年1月1日、神戸港開港と同時に設置された運上所を前身とします。

1873年1月4日に神戸運上所を神戸税関と改称し、誕生しました。

開港とともに設置された運上所は、外国人居留地の東南、現在の神戸地方合同庁舎のある場所に建てられました。当時としては超モダンな和洋折衷の広大な建物で、その窓に張られたガラス板は紙障子しか知らなかった人々をたいそう驚かせ「ビードロ屋敷」と呼ばれたそうです。

神戸税関発祥の地碑は、開港130年に当たる1997年に建立されました



初代神戸税関庁舎模型（神戸税関広報展示室）

（注）文中の年月日は、西暦で表示しています。

## 神戸税関広報展示室

開館時間：8：30～17：00

閉館日：土・日・祝日・年末年始

入場無料、見学自由



税関イメージキャラクター  
カスタム君

団体見学の申込み・問合せ

神戸税関広報室 TEL078-333-3028

E-Mail : kobe-koho@customs.go.jp

http://www.customs.go.jp/kobe/

## 商業貿易港として発展し続ける神戸港の歩みを物語る近代化産業遺産群



神戸港新港第1～3突堤



メリケン波止場



神戸税関



旧居留地煉瓦造下水道



海岸ビル



神港ビル



神戸朝日ビルディング



旧居留地15番館



神戸市立博物館



大丸神戸店南第1別館